

# 平成26年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立池田高等学校

学校番号	20
------	----

## I 自己評価

1 学校教育目標	校訓「向学・友愛・錬磨」の下、明るく規律ある学校生活を通して、「知・徳・体」の調和のとれた人間性豊かな、心身ともに健全な人間形成を期すとともに、現代社会に貢献できる人間の育成に努める。		
2 評価する領域・分野	◇学校経営		
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	池田高校は、約9割の生徒が揖斐郡を中心に通学1時間以内、10km圏内のまさに地域の高校である。生徒は穏和な生徒が多く、保護者も学校の教育活動に協力的である。地域においては、「福祉の町づくり」を進める池田町と関係教育機関との連携が期待されている。 保護者対象のアンケート（7月実施）では、すべての項目における肯定的評価の平均は、過去3年間の推移で77%→77%→84%であり、「学校の教育方針や指導内容を保護者（地域）に分かりやすく伝えている。」が75%→69%→82%と向上した。同様の推移を生徒対象のアンケートで見ると64%→68%→72%と向上しており、特に「本校に入学できてよかったと思っている。」と回答する生徒が9割を超えている。		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇第2次岐阜県教育ビジョン(H26-30)の重点政策「中長期的な将来を見据えた高等学校の改革」に沿って、少子高齢化が進む中で、地域における池田高校の将来的なビジョンを示す。		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・企画委員会、3部長会議、各種委員会及び職員会議 ・分掌会、学年会、教科会		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 学びの挑戦 （授業改善、少人数指導、進路希望に合わせた多様な科目選択、キャリア教育等） (2) 部活動・学校行事・ボランティア活動の挑戦 (3) ユネスコスクールへの挑戦 「Global Welfare（地域・国際社会の中でよりよく生きる）」をキーワードにESD（持続可能な開発のための教育）を推進	(1) 生徒及び保護者等を対象とするアンケート結果 ・卒業生の進路状況 (2) 生徒対象の生活アンケート（迷惑調査）の結果 ・特別活動での生徒の活動状況 (3) 学校評議員会、学校関係者評価委員会による評価		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・英数国における少人数指導や、生徒の興味関心や進路希望に即した多様な選択科目の設定。</li> <li>・習熟度の高い生徒への放課後補習や土曜補習、成績不振者への補充授業や居残り指導等、個々の生徒の実態に即した学習支援を行なった。</li> <li>・職業別ガイダンス、学部・学科別ガイダンス、学校別ガイダンス、インターンシップなど、キャリア教育の充実に努めた。</li> <li>・生徒会の主体的な活動や、球技大会、文化祭、体育大会、版画大会等の学校行事の活発化を図った。</li> <li>・部活動への1年生全員入部や外部講師等による指導の充実、バレー部の新設等、部活動の活性化を図った。</li> <li>・ESD（持続可能な開発のための教育）を進める拠点校として、「福祉」「国際理解」「環境」を3つの柱とする岐阜県の公立高校初の「ユネスコスクール」への認可申請を行った。</li> <li>・池田町教育委員会及び小中学校、専門学校等の教育機関と連携し福祉教育の導入に努めた。</li> <li>・家庭クラブ、ボランティア会、MSリーダーズ、部活動等を中心に、地域の清掃活動、施設訪問、行事等に積極的に参加、ボランティア活動に取り組んだ。</li> </ul>	①一人一人の生徒の個に応じた指導と進路実現ができたか  ②所属意識を高め、生徒の主体的活動の実現ができたか。  ③地域と連携しながら池田高校の方向性を明確に示すことができたか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C D  A <input checked="" type="checkbox"/> B C D  <input checked="" type="checkbox"/> A B C D	

11 成果・課題	<p>○習熟クラスのあり方の検討や、外部人材の積極的活用、専門教科「社会福祉基礎」の導入など、学校改革、授業改善に向けた見直しが見直しができた。</p> <p>○生徒会活動、球技大会、文化祭・体育大会、各部活動での生徒の主体的な活動が見られた。</p> <p>○学校の教育目標や教育方針をESDの視点で見直し、ユネスコスクールに向けた具体的な検討を進めることができた。</p> <p>○HPでの積極的な情報発信やメール配信等により、保護者の方々のご理解が得られ、育友会を中心に多くの学校行事でご協力いただいた。</p> <p>▲旧態然とした授業に慣れ、授業改善に積極的に取り組めない教員が多い。</p> <p>▲ESDにおける具体的な教育活動がまだ手探り状態であり、今後、地域との連携を深め、組織的・計画的に展開する必要がある。</p>	<p>総合評価</p> <p>A <input checked="" type="checkbox"/> B C D</p>
-------------	--	--

12 来年度に向けての改善方策案

年度中に認可される予定のユネスコスクールとして期待されるESDの推進のために、「福祉教育」「国際理解教育」「環境教育」の各分野の学びを、各教科や総合的な学習の時間など教育課程の中で明確に位置づけるとともに、教材や教育手法の研究、外部の機関と協力関係を築くなど、具体的な展開を進める必要がある。その際、生徒が互いに意見交換し、自ら気づき成長する「アクティブラーニング」の手法を取り込む必要がある。教職員を他県の先進校に派遣するなど、授業改善の研修を進める。

## II 学校関係者評価

実施年月日：平成27年2月12日

### 【意見・要望・評価等】

- 1学年のクラス数が4クラスで、地域と連携しながら生徒を育てていく姿勢や恵まれた環境を生かした学校作りには取り組みやすい規模であると感じています。また、岐阜県の公立高校初の「ユネスコスクール」への挑戦には大いに期待しています。これは、人材育成から地域への人材還元へのビジョンがあり、将来に希望が持てると感じました。
- 「福祉の町づくり」を進めるために、地域における池田高校の将来的なビジョンを先生方が一丸となって一步一步進めていると感じます。ユネスコスクールへの挑戦すばらしいと思います。
- これからの高等教育のあるべき姿を巡って先進的な取り組みを管理職自ら先頭に立ってやっておられると判断いたしました。